

## 14 事業名：トルコギキョウの秋出荷作型拡大に向けた短日処理技術の検討事業

### 要約

トルコギキョウの秋出荷作型について、短日処理を行い、効果の評価を行った。  
 早生から晩生品種を用い、定植を6月中旬から7月中旬に行い比較した。  
 各品種定植から28日間（一部18日間）、9時間（一部10時間）になるように短日処理を行うことで、  
 到花日数が2～3週間程度延長し、太茎で切花長が長くなるなど、上位等級比率が高まった。  
 令和元年の秋出荷の市況は全国的に平年を大きく下回る単価で推移した。しかし例年ブライダル等で秋  
 出荷の需要があるため、産地化が市場から期待される。  
 引き続き、品種適性、定植時期、処理時間、処理期間等の検討が必要である。

担当者：JA あづみ農産課 小山、松本農業改良普及センター 小口・松崎、安曇野市農政課生産振興担当 加藤

### 1. 課題設定の背景と目的

松本地域の作型は、一部生産グループを除いて季咲き栽培作型が主体である。需要が期待され、今後生産振興したい秋出荷作型は、近年生産量がやや上向いているものの、安曇野市での生産拡大の取り組みはこれからの状況である。そこで短日処理による品質向上や、当地に適応した品種の検討と経済性について検討する。

### 2. 調査研究の内容

- (1) 実施時期 令和元年7月～12月  
 (2) 実施地区 安曇野市（A氏：豊科、B氏：堀金、C氏：豊科、D氏：穂高）の生産者  
 (3) 供試品種  
 A氏 晩生品種 オーブイエロー（サカタのタネ）  
 B氏 早生品種 冬のマリア（サカタのタネ）  
     中生品種 レイナ（2型）グリーン（サカタのタネ）  
 C氏 晩生品種 オープピンクフラッシュ（サカタのタネ）  
 D氏 晩生品種 オープスノー（サカタのタネ）  
 (4) 調査研究方法  
 ①使用資材：シェード用ホワイトシルバー（トーカン多層ホワイトシルバー）  
 ②生育調査：草丈、節数、茎径 ③品質調査：切花長、切花重、茎径、輪数  
 ④経済性調査：販売価格、作業性

### 3. 結果の概要及び考察

#### (1) A氏

定植日：6/19（自家育苗：播種4/1）

短日処理：6/24～7/22（4週間）、6/24～7/15（3週間）、6/24～7/8（2週間）

表1 生育調査

品種	短日処理	生育調査(7/22)		
		草丈(cm)	節数(節)	出蕾率(%)
オーブ イエロー	17:00～8:00(9時間日長) 4週間	19.0	10.1	0
	" 3週間	15.8	7.5	0
	" 2週間	17.3	8.2	0
	なし	21.7	9.5	66.7

表2 切花調査（調査日：図2の各区撮影日と同日）

品種	処理	切花長 (cm)	茎長 (cm)	節数	分枝数	輪数	茎径 (mm)	切花重 (g)	出荷期間		平均 単価(円)	
									開始	終了		
オーブ イエロー	短日処理	4 W	83.0	44.7	10.6	3.4	8.7	7.0	81.0	9/6	10/6	104.1
	"	3 W	75.8	43.7	10.5	3.2	7.6	6.5	71.2	9/3	9/5	107.3
	"	2 W	69.6	38.7	10.3	3.6	8.8	6.7	62.6	8/30	9/1	75.5
	無処理		60.7	34.1	8.5	3.3	8.5	6.6	53.8	8/22	8/25	80.0

図1 撮影8/30 無処理区が出荷期終盤

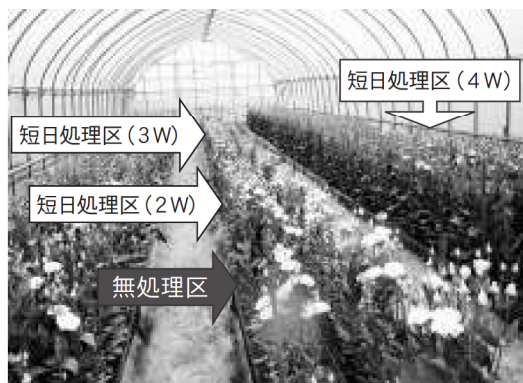
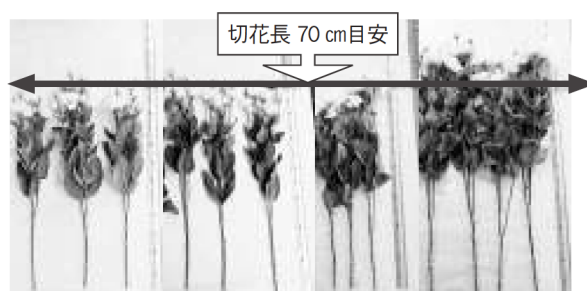


図2 各区の切花調査時



品種	オーブイエロー 定植日 6/19			
試験区	無処理区	短日処理区		
		2週間	3週間	4週間
処理期間		6/24～7/8	6/24～7/15	6/24～7/22
撮影日		8/30	9/6	9/6

(2) B氏

定植日：7/1 短日処理：7/2～7/30 (28日間)

表3 生育調査

品種	短日処理	生育調査(7/30)		
		草丈(cm)	節数(節)	出蕾率(%)
冬のマリア	17:00～8:00(9時間日長)	16.0	7.6	0
	なし	27.6	9.4	100
レイナ(2型)グリーン	17:00～8:00(9時間日長)	15.9	7.5	0
	なし	21.9	8.8	50

表4 切花調査(調査日：図4の各区撮影日と同じ)

品種	処理	切花長 (cm)	茎長 (cm)	節数	分枝数	輪数	茎径 (mm)	切花重 (g)	出荷期間		平均単価 (円)
									開始	終了	
冬のマリア	短日処理	75.3	34.3	9.5	3.8	7.4	6.5	55.7	9/15	9/24	86.7
	無処理	64.8	29.7	7.6	2.8	6.9	4.3	29.3	9/2	—	—
レイナ(2型)グリーン	短日処理	80.1	44.0	8.9	3.4	6.9	6.3	66.9	9/19	10/3	102.2
	無処理	78.1	40.6	7.6	2.9	5.9	5.8	57.1	9/1	9/5	91.9
(参)マリアイエロー	短日処理	78.5	39.3	9.2	3.1	6.8	6.5	51.1	9/17	9/29	85.9
	無処理	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

図3 撮影9/2 無処理区が出荷期

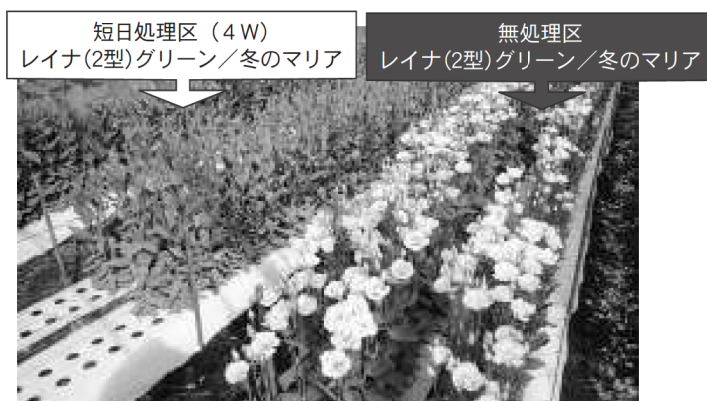
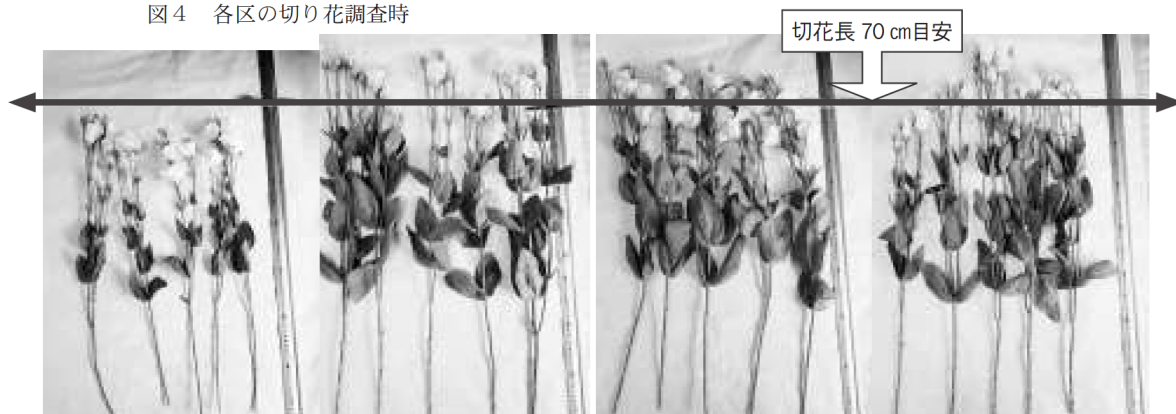


図4 各区の切り花調査時



冬のマリア		品 種	レイナ (2型) グリーン	
無処理区	短日処理区		無処理区	短日処理区
7/1	7/1	試 験 区	7/1	7/1
—	7/2 ~ 7/30 (28日間)	定 植 日	—	7/2 ~ 7/30 (28日間)
9/2	9/17	撮 影 日	9/2	9/17

(3) C氏

定植日：7/12 短日処理：7/14～8/2 (18日間)

表5 生育調査

品種	短日処理	生育調査(8/13)		
		草丈(cm)	節数(節)	出蕾率(%)
オーブピンクフラッシュ	17:00～8:00(9時間日長)	20.6	9.4	0
	なし	27.4	10.2	50

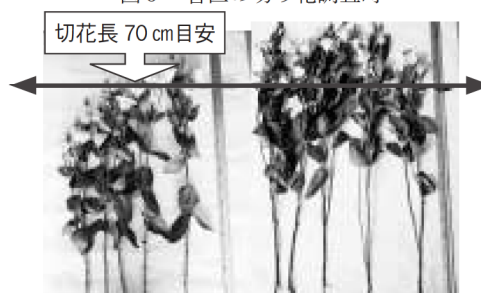
表6 切花調査 (調査日：図6の各区撮影日と同じ)

品種	処理	切花長 (cm)	茎長 (cm)	節数	分枝数	輪数	茎径 (mm)	切花重 (g)	出荷期間		平均単価 (円)
									開始	終了	
オーブピンク フラッシュ	短日処理	93.0	56.7	10.4	3.8	10.2	6.6	92.6	10/2	10/20	123.1
	無処理	70.0	37.7	8.8	2.9	7.5	6.1	60.0	9/17	—	—

図5 撮影9/17 無処理区が出荷期



図6 各区の切り花調査時



品種	オーブピンクフラッシュ	
	無処理区	短日処理区
試 験 区	7/12	7/12
定 植 日	—	7/14 ~ 8/2 (18日間)
撮 影 日	9/17	10/2

(4)D氏

定植日：7/1 短日処理：7/2～7/30 (28日間)

表7 生育調査 ※短日処理区及び無処理区は、別ハウスに設置した。

品種	短日処理	生育調査(8/7)		
		草丈(cm)	節数(節)	出蕾率(%)
オーブスノー	18:00～8:00(10時間日長)	13.2	8.5	0
	なし	16.7	8.6	0

表8 切花調査 (調査日：図7の各区撮影日と同日)

品種	処理	切花長 (cm)	茎長 (cm)	節数	分枝数	輪数	茎径 (mm)	切花重 (g)	出荷期間		平均単価 (円)
									開始	終了	
オーブスノー	短日処理	94.3	50.0	11.2	3.1	8.1	6.8	115.3	10/22	11/3	137.2
	無処理	75.9	35.5	8.2	3.9	9.3	6.7	93.8	9/22	10/20	116.7

図7 各区の切り花調査時



品種	オーブスノー	
試験区	無処理区	短日処理区
定植日	7/1	7/1
処理期間	—	7/2～7/30 (28日間)
撮影日	10/4	10/29

図8 各品種試験区の開花調整比較

◎：定植 ★：短日処理期間 □：出荷期間

	6月		7月		8月		9月		10月		11月		無処理区との比較 到花日数 切花長
	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	
早生 短日処理(9h) (B氏) 無処理			◎★★★	★★★	—————			□□□					+2～3週間 +10cm
中生 短日処理(9h) (B氏) 無処理			◎★★★	★★★	—————			□□□□					+2～3週間 +2cm
晩生 短日処理(4W:9h) (A氏) 短日処理(3W:9h) 短日処理(2W:9h) 無処理	◎	★★★	★★★	★★★	★	—————		□□□□□					+2～3週間 +23cm +2週間 +15cm +1週間 +9cm —
晩生 短日処理(9h) (C氏) 無処理			◎★★★	★★★	★	—————		□□□□					+2週間 +23cm —
晩生 短日処理(10h) (D氏) 無処理			◎★★★	★★★	★★★	—————		□□□□					+3週間 +18cm —

#### 4. 成果の活用と今後の方向性

試験結果から、各品種定植から28日間(一部18日間)、9時間(一部10時間)になるように短日処理を行うことで、到花日数が2～3週間程度延長し、太茎で切花長が長くなるなど、上位等級比率が高まった。

令和元年の秋出荷の市況は全国的に平年を大きく下回る単価で推移した。しかし例年プライダル等で秋出荷の需要があるため、産地化が市場から期待される。

引き続き、品種適性、定植時期、処理時間、処理期間等の検討が必要である。